

「食べた人が笑顔になれるような美味しい果物を作りたい」との思いで  
果樹農家を営んでいる「つどい農園」の関良祐さん理恵さんご夫妻

中野市で「人が集い、笑顔が集う農園に」との願いを込めて名付けた『つどい農園』で、ぶどうを中心にりんご、プルーンと大好きな果物を品目に選び農園を営んでいる関理恵さんを訪問しました。

(取材初のご夫婦揃ってのインタビューとなりました。)



◇こちらに来て何年ですか？

★(夫：良祐さん) もうちょっとで丸4年になります。

◇移住先を長野県に決めたのはどうしてですか？

♥(妻：理恵さん) まず、夫が農業をやりたいと言い出した時、私は「果物だったらやってもいいよ」って言ったところ、夫は果物ならぶどうがいいなあと。東京にいた時、中野市のぶどうはスーパーでよく見えて、ぶどうが美味しく作れるところだって。それに2人とも農業に関わらず長野県が好きだったんです。上高地とかにも憧れがあったり色々重なって長野県にしようってことになって。

あと、中野市は新規就農に対する受け入れも積極的な感じでしたね。他の地域の新規就農の相談会にも行ってたんですけど、「新規就農は難しいよ～」って後ろ向きな話しを聞かされたりする所もありましたよ。

◇農業の魅力はどんなところですか？

♥私は外で働ける所かな。それまではずっと着物を縫ったり、事務や呉服の販売とかで、とにかく日の光が入らないような所で仕事をやってたんですね。その時は別に何とも思わなかったんですけど、ここに来て外で働いてみたらすごく気持ちが良くて！

あと、自分の手で作ったものを直接販売して「すごく美味しい！」って言ってもらえた時は本当に嬉しいですね。

◇呉服屋さんで働いていたそうですが、きっかけは？

♥私、最初市役所に就職したんですけど、お稽古事で着付けを習ったらそれにはまって。市役所辞めて和裁の学校に通って和裁士として働いた後、呉服店で働きました。(そこまではまっていた着物の仕事を辞めて、農業に転換っていうのもすごいですね。) その時はすごく着物にのめり込んで、もう思い残すことがないという所まで散々楽しんだので、今は自分で楽しめればいいかな。今はあまりにも着る機会がないので、そこはちょっと寂しいですけど。

◇知らない土地に来る不安とかはありませんでしたか？

♥ありました～。こっちはご近所付き合いとかすごく活発だっているんで、どうなっちゃうのかなって不安でした。東京だと地域との関わりはほぼゼロだったので。でも皆さん本当に良くして下さるんです。何も困らないですね。分からないことは親身に教えて下さるし。いろんなイベントがあるから大変ですけど、参加すれば知り合いにもなれるし。

◇長野に移住するって決めたときの周りの反応はどうでしたか？

♥友達とかからは「いいな～」って羨ましがられたり応援してくれました。私の両親は賛成はしてくれたものの、農業やるなら千葉でやりなさいって言われました。千葉の父の田舎に行けば畑もあるし、自分達が面倒見てあげるからって言われたんですけど、果物(ぶ

どう)を作りたかったので、そこは何回も説明して。最後は「頑張ってください」って感じでした。

★うちの両親は自営業をやっていて、父親はうるさく言わなかったんですけど、母親が新潟の十日町出身で農家だったんですね。農業や雪の大変さを知ってるから、最初大反対でしたね。「行くなら一人で行け、理恵さんはウチで預かるから。大変な思いさせちゃ駄目だ」って。1年か2年ぐらい計画を説明したり説得して納得してもらいました。今ではすごく応援してくれて、遊びにも来てますよ。

◇理恵さんは、ご主人から「農業をやりたい」って言われた時、どう反応したんですか？

♥私の親戚が家庭菜園の大型版みたいな畑をやって、そこで野菜の収穫を二人でやらせてもらった事があったんです。それがすごい楽しくて(夫は)そこではまったんですね。

★野菜が美味しくて。収穫した野菜を自分の実家に送ったらすごく喜んでくれて。作ったものがこうやって喜ばれるんだ！っていうのがきっかけですね。

♥そして、趣味で茨城県で米や野菜作りの援農ボランティアをやってたんですが、そこで更に楽しくなって、もっと何かやりたくなって。そのうちに農業を仕事にしたいって言ったんですけど、最初は「じゃあ定年後ね」っていう話しだったんです。

それが、どんどん前倒しになったって感じです。私もずっと一緒に援農体験やってて、主人が農業をやりたいっていうのはうすうす感じてたので、言われてもそんなにびっくりはしなかったですね(笑)。

◇相談会にも一緒に行ってたんですか？

♥そうですね。(一人で話聞いてきて、ある日突然家族に打ち明けるってパターンよく聞きますよね)★そういう方結構いますね。♥そうなんです。今は相談を受ける側で、東京の就農相談会や新規就農についての話を頼まれたときも話すんですが、旦那さん一人来て、ある日突然奥さんに話すみたいなのは、「それでは誰も付いてきませんよ。とにかく全部奥さんに話してください。奥さんと同じ立場だったら私も付いてきませんでしたよ」って話してます。(中野にも、もっと若い人たちに来てもらいたいですよ)★そうですね。本当に興味のある人は沢山いますからね。★♥(夫妻)やっぱり長野県は人気があるからね。

◇新規就農後、辛い時期はありましたか？

♥ん～、そういう事を聞かれてもあまり思いつかなくて。作業も大変とは思わないですし、自然災害とか、全滅とかあれば分かりませんが。★それなりの覚悟はしてきたので。

♥辛い事ではないけど、今、物置と作業場が一向に見つからなくて困ってます。★同期で南信に就農した夫婦は最初アパート住まいで、狭いアパート内で荷造りしてたそうで、そういう話を見たり聞いたりすると、新規就農者が困ることの一つだと思いますね。

◇ストレスってどんな時に感じますか？

♥あるよねきっと。★繁忙期になかなか自分の時間が作れなくて、仕方ないんですけど。

♥作業が押していて、あ一間に合わないっていうのはあるよね。★周りの農家さんは早いし、僕たちはそれだけの技術がまだない。♥そうだね。早さが追いつかないから、それはストレスかな。

◇そのストレスの解消法って何かありますか？

★温泉行ったり。♥美味しいものがいっぱいあるから、美味しいもの食べたり美味しいお酒飲んだり。★東京では見かけなかったおいしいお酒がここにはいっぱいあるから嬉しいですね。♥食べたことのない美味しいものもたくさんあるし。★ご近所さんからも美味し

い野菜もらったり。♥玄関にぼんって（置いてあって）★♥ありがたいです。

◇果樹だけでなく、自家用野菜も作れるようになるといいですね。

★それが去年、畑を借りられたので野菜をちょっと作るつもりが・・・♥そう、今までそういう畑が全くなくてすごくウズウズしてたから、ちょっと調子に乗ったら。★作りすぎちゃって（笑）。♥野菜に時間掛けちゃったのも作業が押した一因じゃないかと思って。

農業女子仲間の宮澤みえさんから苗買ったんですけど、「こんなに？」って。★「これだけあれば野菜農家になれるよ」って言われました（笑）。

♥それで、お互い作りたい野菜（担当）があって、相手の作る野菜は「それもっと減らしていいんじゃない？」って言い合ったり。でもお互い自分のは「これは減らせない！」みたいなね（笑）。十分作ったよね。★やっぱり手が回らないもんですね。最初はできるかなと思ったんですけど。♥調子に乗っちゃったね（笑）。

★友達とか遊びに来たときに野菜があると、収穫の体験とかお土産代わりにいいので。♥子供達とかすごいテンション上がってね。果物だけだと収穫期以外は楽しめないし。あと、差し入れのお返しに野菜詰めて送るとすごく喜ばれるので。

★今年もちょっとだけ作ろうかと。♥厳選してちょっとだけね。気を付けながらね（笑）。

◇お友達には、長野をオススメしたことはありますか？

♥すごくオススメです！みんな遊びに来たがります。畑の手伝いをしたいって。（そうなんだ）何処にも行けなくて申し訳ないなって思う位ずーっと畑仕事とかやってくれて。（新鮮なんですかね？）そうみたいです。畑仕事もそうですけど、ぶどうのパック詰めやシール貼り、出荷も楽しいって子供達も喜んでやってくれます。私たちからすると「そんなにいいの？」って思うことを、皆さん楽しんでくれてますね。

◇NJ（農業女子）北信会にはよく出かけてますか？

♥そうですね。定例会は毎月あって楽しい飲み会なんです。それと年に1回夫や子供、家族がみんな集まる「わちゃわちゃ会」っていうのが来週あるので、今から楽しみなんです。

そうだ！私のストレス解消はNJ北信かな！（なるほど）NJ北信の集まりや行事に合わせて仕事調整したり時間作ったりして、NJ北信を中心に仕事を頑張るっていう感じはすごいあります。（NJ北信があって良かったですね）ホントNJ北信があって良かったなって思ってます。

◇ご主人は何か会に入っているんですか？

★農協の青年部に入れさせてもらって、すごく良かったです。月1回ぐらい定例の会があったり、開業事業などの時に週1ぐらいで集まって、わいわい言いながらやってます。みんな同年代なので心強いです。

◇将来的にどの様にしていきたいか考えている事はありますか？

★今はほとんど農協に出荷してるので、将来的にはほぼ直接販売でやっていきたいなって考えています。あとは、皆さんに遊びに来てもらって、農園を体験してもらいたいですね。

お二人とも地域に馴染み、良祐さんはJA青年部、理恵さんはNJ北信と新しい仲間を見つけ、お二人ともいい関係を保ってるんだなあと感じました。

そしてなにより、お互い野菜作りの量を減らさなかったという楽しいエピソードは、ご自分達の手で作ったものを食べた人が喜んでくれる、まさにお二人の共通の喜びが「つどい農園」のペースとなっているんだなあと感じました。

仲の良いお二人に出会えて、幸せをまた一つ見つけました。ありがとうございました！